
岐阜県立可児工業高等学校

学校長 岩田 幸作

学校住所 可児市中恵土 2 3 5 8 - 1 電話0574-62-1185

- 1 会議の名称** 学校評議員による会議（第3回）
- 2 会議の構成**

委員	徳田 泰昭	可児工業団地組合代表〔徳田工業(株)社長〕
	藤田 美知子	可児市青少年育成会議副委員長
	水野 三千代	多治見法人会可児支部女性部会長 〔キング印刷紙工(株)取締役〕
	三宅 満	可児市中恵土自治会連合会長
	山田 良二	可児工業高等学校同窓会長 〔カヤバ工業(株)生産技術課長〕

（委員名は五十音順）

学校側	岩田 幸作	校長	古田 哲	教務主任
	山川 清	教頭	兼松 竹司	生徒指導主事
	渡部 邦夫	教頭	川合 正郎	進路指導主事
	古川 司朗	事務長	小島 金也	工業部長
- 3 会議の目的** 学校が保護者や地域住民の信頼と期待に応えるためには、地域に開かれた学校づくりの推進が重要である。学校は家庭や地域にその運営方針を明らかにし、その理解と協力を得るとともに、学校外の有識者等の参加を得て、学校運営に対する幅広い意見を集約し、もって本校教育の一層の改善・充実に資する。
- 4 会議の開催** 平成18年3月7日（火） 14：00～16：00
於：可児工業高等学校 校長室
委員5人、学校側8人が出席
- 5 会議の概要** 今年度最後ということで、本校の活動を集約した校誌「みかくし山」をもとに本年度の取り組み、成果を報告し、来年度に向けての提言や学校評議員会の運営について、評議員の方々から意見をいただいた。

(1) 本年度の取り組みと反省について

ア 教務部

昨年度より、評価の在り方やシラバスについての研修を開き、職員が共通認識を持ち、本年度、全科目のシラバスを作成した。冊子にして1年生は4月に、2・3年生は10月に配付し、年間計画、学習内容、評価の観点などを示した。現在、来年度に向けて改定中である。

また、授業改善に生かすため、生徒による授業評価を生徒の自己評価とともに、全科目一斉に実施した。職員に抵抗感があったが、生徒は思ったよりよい評価をしてくれた。来年度も続けていきたい。

意見1 シラバスの作成は各学校でも実施されているのか。

(可茂地区では昨年度は半数以下であったが、今年度はすべての学校で実施されているはずである。)

意見2 シラバスの取り組みは、岐阜県だけなのか、それとも全国的なのか。

(全国的に取り組まれている。)

意見3 授業評価は職員会議で発表しているのか。また、保護者にはどうか。

(発表している。保護者にまでは発表していない。すべての項目ではないが、いずれ公開することになるのではないか。)

意見4 中学校では、手を挙げた回数が黒板に貼ってあったが、評価に入れるのか。

意見5 企業では、部下が上司を評価する時代になってきている。

意見6 企業では到達目標を設定させ、それをもとに評価をするが、目標レベルを下げ設定するなどの弊害が出てきている。

イ 生徒指導部

善悪のけじめはある程度できているが、時間のけじめがつけられない生徒が少なくない。基本的な生活習慣の再確立を目指し、「遅刻0週間」「爽やかな挨拶運動」を重点に置いて、全教員と生徒会執行部やMSリーダーズの協力のもと、年間通して行った。朝食を取る、家族の会話が増えた、保健室利用が減るなどの相乗効果があった。さらに、その姿勢、精神が授業の中で生かされ、成績にもつなげることが課題である。また、学校が生徒の居場所となるようにしていきたい。

MSリーダーズのボランティアを中心にした活動は、マナースピリット賞を受賞した。その活動が全校へ広がるのを期待したい。

意見7 MSリーダーズの活動・成果を後輩にうまく引き継ぎができていくのか。

(他校では強制的にメンバーを選出しているところが多いが、本校は自主的に希望してくる者が多く、継続してやりたい者も多いので心配はない。)

意見8 子守神社の掃除はありがたい。

意見9 MSリーダーズの活動は、青少年育成会議の活動の方でも助かりありがたい。

ウ 進路指導部

就職 6 割、進学 4 割が、ここ 2・3 年の傾向である。就職は求人数が増加し、好調であった。親がよく知っている大手企業への就職が多かった。公務員関係は厳しかった。学校としては、就職先をもう少し幅広くしていきたい。進学では、指定校だけでなく A O 入試での合格もあり、工業系でない方面への進学も増えている。積極的に働きかけ、早めの進路選択をさせたい。

インターンシップは導入から 3 年経過したが、来年度以降も 8 月末、2 年生で実施したい。

意見 10 インターンシップは、技術力をつけることをしっかり体験させたいが、けがが怖い。けがをさせ、苦しめられた経営者をみている。

意見 11 企業では安全第一を考えているが、想像できないけがをする。

意見 12 就職者の定着率はどのくらいか。

(職安での資料はあるが、本校の卒業生については把握していない。)

意見 13 これからは離職率が増えていくのではないか。最近の子は、もう少し頑張ればと思うところで辞めてしまう者が多い。

意見 14 就職については、卒業生の生の体験談を聞かせるとよい。年齢が近い者の方がよく聞いてくれるのではないか。

意見 15 ある専門学校では、卒業式に卒業生が体験談を話すところがある。

意見 16 企業が求めるのは、気持ちが前向きの者であり、気持ちを出してきちんと話せる者である。専門的知識はあまり必要ない。

意見 17 技術を身に付けるには、コミュニケーションがとれることである。また、挨拶ができるのは本人の武器になる。教える側も気持ちがよい。

意見 18 痛い目を経験していることも大事なことである。

意見 19 会社でも話をせず済ます者が多くなっている。すぐそばにいてもメールでのやりとりをしているが、メールより言葉でコミュニケーションを図ることが大切である。

エ 工業部

生徒が主体的に活躍する場として、地域行事やコンテストなどに積極的に参加し、外部との交流を深めたり、多くの成果をあげることができた。(優秀賞をとった生徒の課題研究作品「指南車」の実物を紹介した。)

意見 20 生徒のつくったものを見せて、評価してもらえるのはすばらしい。

意見 21 コンテスト等に参加するのは、生徒の励みになってよい。

意見 22 目標を持ってイメージを作って取り組むことはいいことである。

意見 23 自分たちの時代と違って、いろいろとできて幸せである。

意見 24 女子生徒は何人いるか。

(15 名いる)

女性の職場進出が増えているので、工業高校でも増えている思ったが、少ないですね。

(2) 来年度に向けての提言

- 意見 25 地元にもよい企業がある。企業側も努力するが、ぜひ地元就職する、定着するよう指導をしていただけるとありがたい。
- 意見 26 青少年育成会議の補導について、意見や要望があればお聞かせ願いたい。また、補導をしていて、女子生徒への注意が難しい。女子生徒からは返事が返ってこない。親への対応にも苦労している。
(夜 10 時少し過ぎの補導は弾力的に扱って欲しい。心配なことがあれば、学校へどんどん連絡していただきたい。)
- 意見 27 工業高校は初めてで、国際交流大会で英語で研究発表をするなど、いろんなことができるので驚いている。よい面を伸ばして行ってほしい
- 意見 28 3 年計画で、ものづくりを通して人づくりをして欲しい。学内だけでなく外へ出て人と接し、人間性を磨いて欲しい。
- 意見 29 校内では挨拶してもらえが、外に出るとしてもらえない。外でも挨拶ができる生徒であって欲しい。地元でできることがあれば協力したいので、言っていただきたい。
- 意見 30 地域の行事へどんどん参加してほしい。
(行事への参加だけでなく、ものづくりの技術や作品を活かした貢献のあり方を考えていきたい。)

(3) 学校評議員会の運営について

- 意見 31 学校評議員会は、学校のいろんなイベントに絡ませて開催していただけるとよい。
(年 3 回の会議の時だけでなく、お仕事で忙しいですが、普段気軽に学校へ来ていただきご意見をいただくとありがたい。)

6 会議のまとめ

シラバスのことはほとんど知られてないようで、今回きちんと説明してよかった。生徒及び保護者にも改めて説明していきたい。生徒の確かな学力をつけるためにも、シラバスの工夫や生徒による授業評価をもとに授業改善することが求められる。

「遅刻 0 週間」、「爽やかな挨拶運動」は相乗効果も大きく、これをベースに公私のけじめや授業規律の確立などにもつなげていくことが望まれる。

地域行事への参加が求められており、生徒が主体となって取り組み、自信をもたせやコミュニケーション能力をつけさせる場として、一層地域との連携・交流を深めたい。

これまで 3 回にわたっていただいたご意見・ご提言を学校運営に反映し、地域に信頼される開かれた学校づくりに努めていきたい。